

令和2年度市政執行方針

「活気に満ちたまち、歩いて楽しいまち、訪れたいくなる
美しいまち、住む人にやさしいまち」をめざして

工藤市長は、第1回函館市議会定例会において、2年度の市政執行にあたり、その所信を明らかにしました。（要約を掲載します）



市長 工藤 壽樹

はじめに

私は、「函館の明日を変えよう」という強い信念のもと、人口減少や経済の低迷など活力を失いつつあった函館の再生に向け、「財政の再建」と「経済の再生」を最優先課題として、経済波及効果の高い交流人口の拡大や中心市街地活性化、函館アリーナの整備などのほか、福祉、教育等各般の施策に取り組んでまいりました。

いま、改めて私の思い描くまちの姿を見つめつつ、新たなステージとして、経済の強化とともに「福祉と健康」に重点を置き、誰もが幸せと豊かさを感じ、安心して暮らすことができるよう、「市民一人ひとりの幸せづくり」と

「地域経済の強化」を最大のテーマとして、函館のまちづくりに取り組んでまいります。

主要施策の推進

1 市民一人ひとりの幸せを大切にします

市民一人ひとりが幸せと豊かさを感じ安心して日々を送ることができるよう、保健・福祉サービスや保育・教育環境等のより一層の充実に努めるほか、町会や関係機関との連携をさらに強化し、地域で支え合い、心身ともに健やかに暮らせるまちづくりを進めてまいります。

一人ひとりの暮らしや生活の実情に応じて地域で見守り支える新たな福祉拠点づくりについては、ひきこもり等の困難を抱える市民の実態調査を行うほか、フォーラムを開催し、関係機関との情報共有やネットワークの構築に向け取り組みを進めます。

子育て支援については、学童保育における保護者負担の利用料軽減をさらに拡充するほか、放課後児童支援員等の処遇についても、一層の改善を図ります。

子どもやひとり親家庭等の医療費助成については、今年8月から、入院費および3歳未満と非課税世帯の子どもの通院費を無料とします。

子どもの虐待への対策を強化する子ども家庭総合支援拠点については、アドバイザーの招へいや先進地調査を行うなど、開設に向け準備を進めます。

保育士の人材確保については、新たに保育の仕事の魅力や伝える映像を作成し、将来の担い手となる若者への情報発信に努めます。

ひとり親家庭への支援については、看護師などの資格取得にかかる授業料等を支援するほか、合同企業説明会の実施など、ひとり親の方の雇用促進を図ります。また、ファミリー・サポート・センター利用時の自己負担をさらに軽減するとともに、生活相談への対応や関係機関への付き添い、家庭訪問など、一人ひとりの状況に応じた支援に努めます。

町会の活性化については、引き続き課題や必要な施策に

ついて検討を行うほか、セミナーを開催し、町会のあり方や問題点などを市民が共有する機会を設けます。

学校教育については、スクールソーシャルワーカーの配置やSNSを活用した教育相談により、いじめや不登校など様々な課題に対し、関係機関と連携しながら解決に向け取り組みます。

学校と地域の連携による取り組みとしては、コミュニティ・スクールを通じて、地域住民などの学校参画を促進するとともに、地域と学校をつなぐコーディネーターを配置します。また、地域住民の読書活動の充実を図るため、学校図書館の地域開放を進めます。

このほか、給付型奨学金の支給により、学ぶ意欲のある学生を経済的に支援するとともに、私立学校などへの運営助成を拡充し教育環境の充実に努めます。

2 函館の経済を支え強化します

人口減少による経済の縮小や人手不足、進学や就職を機とした若者の市外への流出、記録的な不漁による水産業の不振など、函館をとりまく状況は、依然として厳しく様々

令和2年度予算の主な内容

《新》は新規事業

1 市民一人ひとりの幸せを大切にします

○笑顔で暮らせる地域づくり関係経費	670万円
○「はこだて市民健康大学」実行委員会負担金 (正式開校 定員1,000名)	1,450万円
○がん対策推進事業費 (《新》がん検診普及啓発等関係経費ほか)	1億6,403万4千円
○《新》健康経営推進事業費	100万円
○高齢者保健福祉計画推進関係経費	6億8,453万5千円
○障がい者基本計画推進関係経費	85億3,340万5千円
○《新》介護の未来を創る人づくりプロジェクト関係経費	52万3千円
○介護助手活用促進事業費	225万円
○地域放課後児童健全育成事業費 (学童保育料の軽減額の拡充(児童1人あたり月額3,000円→4,000円)ほか)	8億4,066万2千円
○子ども・ひとり親家庭等医療助成費 (令和2年8月診療分から、入院費および3歳未満と非課税世帯の子どもの通院費を無料化)	5億6,652万2千円
○《新》子ども家庭総合支援拠点調査経費	95万円
○マザーズ・サポート・ステーション事業費	410万5千円
○《新》保育士の仕事の魅力発信事業費	165万9千円
○母子家庭等自立支援給付金支給事業費	2,062万4千円
○ひとり親家庭等雇用促進補助金	1,120万円
○雇用対策推進費 (ひとり親家庭のための合同企業説明会を開催)	170万円
○ひとり親家庭技能習得支援給付金	529万6千円
○ひとり親家庭等就労自立支援給付金	54万円
○ファミリー・サポート・センター事業費(利用負担の軽減)	2,251万円
○ひとり親家庭等子どものための学習支援事業費	200万円
○町会活性化推進事業費	130万円
○SNS教育相談事業費(対象者・期間の拡充)	197万8千円
○いじめ・不登校等対策推進費	483万8千円
○学校司書関係経費(配置8名→12名)	107万1千円
○《新》学校図書館環境整備事業費	575万6千円
○《新》日本語指導関係経費	71万3千円
○《新》プログラミング教育教材整備事業費	286万9千円
○部活動地域支援者活用事業費 (対象校に市立函館高等学校を追加)	527万4千円
○《新》地域学校協働活動推進事業費	90万円
○コミュニティ・スクール推進事業費	220万2千円
○学校開放事業経費(開放校8校→12校)	341万9千円
○給付型奨学金	728万円
○私立学校運営助成費 (生徒1人あたりの助成額26,000円→28,000円)	1億2,588万8千円
○私立専修学校運営助成費 (生徒1人あたりの助成額26,000円→28,000円)	1,652万円

2 函館の経済を支え強化します

○《新》湯の川地区活性化推進費	5,200万円
○フェスティバルタウン推進経費	480万円
○海外観光プロモーション実施経費 (《新》台湾・函館マラソン交流推進経費ほか)	3,220万円
○《新》ナイトタイムエコノミー促進経費	60万円
○《新》観光力向上推進経費	60万円
○《新》公共施設利用料金キャッシュレス決済実証実験実施経費	110万円
○若松ふ頭旅客ターミナル整備事業費(実施設計)	3,220万円
○函館港利用促進関係経費 (《新》函館港クルーズセミナー開催経費ほか)	4,896万8千円
○《新》若松地区バス乗降場整備事業費	7,200万円
○函館空港利用促進関係経費(アウトバウンド対策の実施)	461万6千円
○中心市街地賑わい事業費 (《新》五稜郭にぎわいプロジェクト開催経費ほか)	1,320万円
○食の産業化関係経費	1,890万円

な課題が顕在化しています。地域経済を支え強化するため、観光振興による交流人口の拡大に努めるほか、水産業をはじめとする地場産業の振興、若者の就労支援や人手不足対策などに取り組みんでいます。

観光振興については、湯の川地区の活性化を図るため、新たに道路や観光街路灯など歩行空間の整備を進めるとともに、「湯の川の灯り」を拡充するなど、賑わいの創出に努めます。また、観光分野にかかる施策に必要となる新たな財源として、宿泊税の早期導入を図ってまいります。

クルーズ船の受け入れについては、若松ふ頭の旅客ターミナルの実施設計を行うとともに、今後も積極的なポートセーリングを展開し、年間70回のクルーズ船の寄港をめざします。

中心市街地の賑わい創出では、駅前・大門地区でグルメサーカスやはこだて夜祭りを開催するほか、本町地区などにおいて、新たにイベントを実施するなど、まちの活性化や消費の拡大を図ります。食の産業化については、地域の食に関する情報の発信に努めるほか、はこだてフードフェスタの開催など、食の魅力のさらなる向上を図ります。

また、函館ならではの土産品の開発・改良支援を行います。工業の振興では、地元企業のIoT設備導入を支援するとともに、ロボット活用の調査研究や普及促進に取り組みます。

企業立地の促進については、IT企業等の誘致を進めるとともに、工場の新増設などに対する支援を行います。また、環境のよい場所で、休暇を兼ねて仕事を行うワーケーションに取り組み企業の誘致を進めます。

企業の後継者不足については、市内事業者の実態を把握するほか、セミナーを開催し、事業承継の促進を図ります。

漁業の振興については、サーモンやウニ・アワビなどの養殖事業の実現に向けた調査・検討を進めます。また、小型イカ釣り漁業者の出漁を促し、生鮮スルメイカの確保につなげていくとともに、不漁が続いている天然コンブの繁茂状況の改善やコンブ漁業における省力化について調査研究します。

農業の振興については、農地の整備や機能維持をはじめ、スマート農業に対応するための基盤整備を支援します。若者などの就労支援については、市内の高校生や大学生等と地元企業との交流の機会を提供するほか、若者や女性、

高齢者の就労体験事業に取り組みます。外国人材の受け入れについては、事業者が集まり意見交換する場を設けるなど、外国人材の活用促進に取り組みます。また、在住外国人向けの日本語教室の開催や、相談窓口への外国人相談員の配置など安心して生活ができるよう支援します。

3 快適で魅力あるまちづくりを進めます

デザイン性の高い都市空間や町並みを整備するほか、交通アクセスの向上など都市機能の充実に努めます。

○《新》輸出ビジネス支援事業費	380万円
○インバウンド向け販路開拓支援事業費	150万円
○IT・ロボット等の活用による生産性向上支援事業費	3,440万円
○魚種転換支援事業補助金	4,000万円
○《新》ワーケーション促進事業費	220万円
○《新》事業承継促進費	370万円
○国際水産・海洋都市構想推進費	1億3,863万1千円
（《新》水産・海洋に関するローカルイノベーション創出支援事業費ほか）	
○魚類等養殖推進事業費	25万円
○小型イカ釣り漁業出漁支援補助金	3,700万円
○水産海洋研究連携推進事業費	1,700万円
○コンブ漁業作業省力化研究事業費	440万円
○《新》馬鈴薯連作障害解消対策事業費補助金	504万3千円
○《新》スマート農業促進基盤整備事業費補助金	68万7千円
○《新》人・農地問題解決加速化支援事業費	91万3千円
○《新》地域材利用促進事業費	72万円
○女性・高齢者の就労体験事業費	397万4千円
○《新》外国人材受入支援事業費	120万円
○地域国際化促進費	1,100万円

3 快適で魅力あるまちづくりを進めます

○西部地区再整備事業推進費	100万円
○《新》旧ロシア領事館活用推進費	400万円
○観光資源施設整備費	2,145万9千円
○《新》(仮称)函館駅前東地区市街地再開発事業費	4,800万円
○道路橋梁新設改良費	22億8,085万2千円
（《新》国道279号照明灯美装化事業負担金ほか）	
○函館山遊歩道整備費	700万円
○美原地区路線バス乗降場整備事業費および関連事業費	3億6,000万円
○防災行政無線整備費	350万円
（《新》スプリアス規格適合改修(戸井・恵山・榎法華支所管内)）	
○《新》災害時健康危機管理体制推進事業費	40万円
○《新》総合保健センター設備改修事業費	1,086万8千円
○本庁舎設備改修事業費(《新》外壁タイルほか)	4,700万円
○《新》Net119緊急通報システム運用経費	72万6千円
○消防自動車購入費	1億6,400万円
（《新》特殊救急自動車1台ほか）	
○特定建築物耐震化支援事業費	5億912万円
○河川改修事業費	2億5,910万円
○河川維持管理費(浚渫・樹木伐採の推進)	5,401万円
○新エネルギー等システム設置費補助金	500万円
○《新》ごみ分別促進アプリ関係経費	63万8千円
○プラスチックごみ対策費	188万9千円
○新廃棄物処理システム構築関係経費	1,286万円
○合併処理浄化槽設置費補助金	1,814万3千円
（単独浄化槽撤去、宅内配管工事への補助新設ほか）	
○《新》住宅関連政策検討調査費	30万円
○除雪費	7億260万円
○《新》ホストタウン推進費	1,100万円
（2020東京オリンピック・パラリンピック合宿支援等函館市実行委員会負担金）	
○《新》聖火リレー函館ルート関係経費	60万円
○《新》千代台公園庭球場整備事業費	1,500万円
○《新》市民スケート場整備事業費	7億1,500万円
○縄文遺跡群世界遺産登録推進関係経費	435万7千円
○《新》郷土学習推進費	373万4千円
○史跡垣ノ島遺跡整備事業費	1億5,044万1千円
○特別史跡五稜郭跡環境整備事業費	8,000万円
○重要文化財旧函館区公会堂保存修理事業費	5億9,388万6千円
○定住者誘致推進事業費	330万2千円
○IUターン事業推進費	220万円
○行政事務AI・ICT化推進費	2,251万9千円
○《新》学齡簿・就学援助システム関係経費	36万3千円

また、多発する自然災害から市民の生命や財産を守るため、災害に強いまちづくりをさらに推進してまいります。

西部地区については、空地・空家などの利活用に向けた所有者との協議や、公有地の活用策の検討などに取り組みます。

函館駅前地区においては、棒二森屋跡地の市街地再開発事業を促進するほか、引き続き駅前通の電線類の地中化を進めます。

ガーデンシティ函館の取り組みでは、景観に配慮した道路空間の形成や函館山の遊歩道の整備を進めます。

交通体系については、北海

道縦貫自動車道や函館・江差自動車道の着実な整備について、引き続き国に要望してまいります。

公共交通については、美原地区路線バス乗降場の整備工事を行うとともに、全市的なバス路線網の再編を進めます。防災については、都市インフラの老朽化対策や建築物等の耐震化を進めるほか、河川の改修や浚渫を行います。また、各種災害を想定した住民参加型の防災総合訓練の実施など、防災意識の向上や地域

防災力の強化に努めます。環境保全・廃棄物対策については、ごみの減量化やプラスチックごみの排出抑制など

の啓発を行うほか、新たな廃棄物処理施設の整備に向け、事業者選定を行います。除雪対策については、引き続き安定した除排雪体制を維持するとともに、市民協働による地域除雪活動を推進し、冬期間の円滑な道路交通や快適な生活空間の確保に努めます。

文化・スポーツ振興については、リニューアルオープンする市民会館をはじめ各施設において、市民の文化芸術活動の促進を図るほか、東京オリンピック・パラリンピックに向け、カナダのバドミントンチームの事前合宿を支援するとともに、聖火リレーの円

滑な実施が図られるよう、関係団体と連携し準備を進めます。また、千代台公園のテニスコートの増設に向けた実施設計を行うとともに、市民スケート場の冷却設備の更新などに取り組みます。

文化財については、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録に向け、市民の関心を高め機運の醸成を図ります。また、旧函館区公会堂の保存修理や五稜郭跡の石垣改修、垣ノ島遺跡の整備に引き続き取り組みます。

定住者の誘致については、移住検討者向けのセミナーの開催やフェアへの参加のほか、「函館しごとネット」を活用

した職業紹介など、情報発信に努めます。行財政改革については、定型な作業を自動で処理する技術であるRPAを市税業務の一部に導入するなど、行政事務のAI・ICT化に取り組みます。

私は、函館が、住む人に優しいまち、そして国内外から様々な人々が集い、交流し、暮らす、活気に満ちたまちとなるよう、引き続き函館再生への「改革と挑戦」を続けてまいります。

皆様のより一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

◆